

情報技術の人間学

ー情報倫理へのプロローグー

2007年8月23日

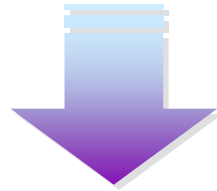
笠原 正雄

E-mail: kasahara@utc.osaka-gu.ac.jp

倫理とは

倫：人間の道。理はこれを強調するため。

(和辻哲郎：人間の学としての倫理学)



…しかし、倫理とは人間、時間、空間に関わる、
もっと奥深い概念ではないか？

理：宇宙の根本原理(日本国語大辞典，小学館)

紀元前2世紀の淮南王劉安編「淮南子」によれば、

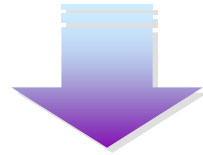
宇は空間の広がり

宙は時間の広がり

<文献> 笠原正雄：『情報技術の人間学』
電子情報通信学会出版(2007年2月)

情報倫理とは

“倫理”は、東洋的な考え方から捉えれば、
“人間”，“時間”，“空間”の根本原理と解釈
することができる。



情報倫理とは、情報技術に携わる者、そして
その成果を利用する者の両者において、
人間，時間，空間の在り方を誠実に思索す
る姿勢そのものにある。

ヒトは道具的か？ あるいはコミュニケーション的か？

フランクリン：人間は道具を作る動物である

マンフォード：人間は夢見る動物である

私(≒マンフォード)：人間はコミュニケーション的である

本多：人間という種族は他の動物種と違い、何よりもまず
イメージを思い浮かべ、シンボルを操ることに
優れた資質をそなえている

ヒトとは何か？このことを考える基本は“シンボルの理解”にあり。

本多修郎『技術の人間学』より

情報倫理に向う基本姿勢

情報技術の発展がもたらした現メディア（コンテンツ）環境に注目し、この環境が人間、時間、空間に与える光と影とは一体如何なるものか。このことを真摯に考える姿勢が基本姿勢。

メディア ≡ コンテンツ ≡ シンボル
と考えて話を進めたい

これからは少しやわらかいお話となります

人にとってコンテンツ(メディア)とは何か ー人間の在り方を考えるためにー

『信濃なる千曲の川の細石も
君し踏みてば玉と拾わん』(万葉集)

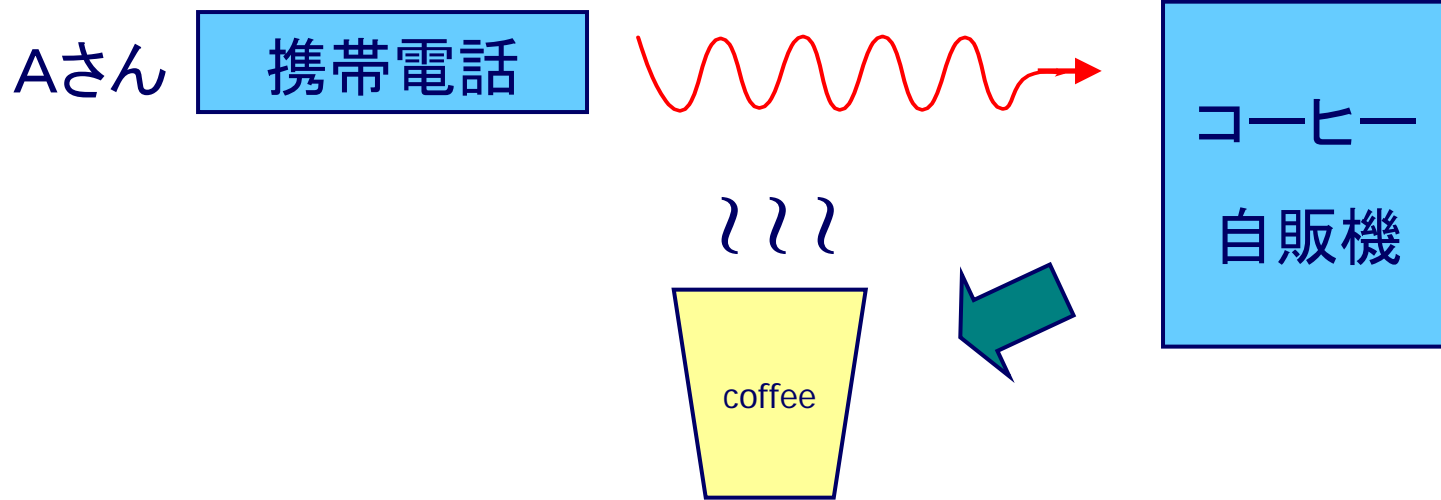


メディア(コンテンツ)が満たすべき条件

要件1: メディア(コンテンツ)の良否は主体の年齢に大きく依存する。メディア(コンテンツ)を鑑賞する主体の年齢は適切なものでなければならない。

要件2: メディア(コンテンツ)は他者のペースで鑑賞させられるものではなく、自己のペースで鑑賞するものである。

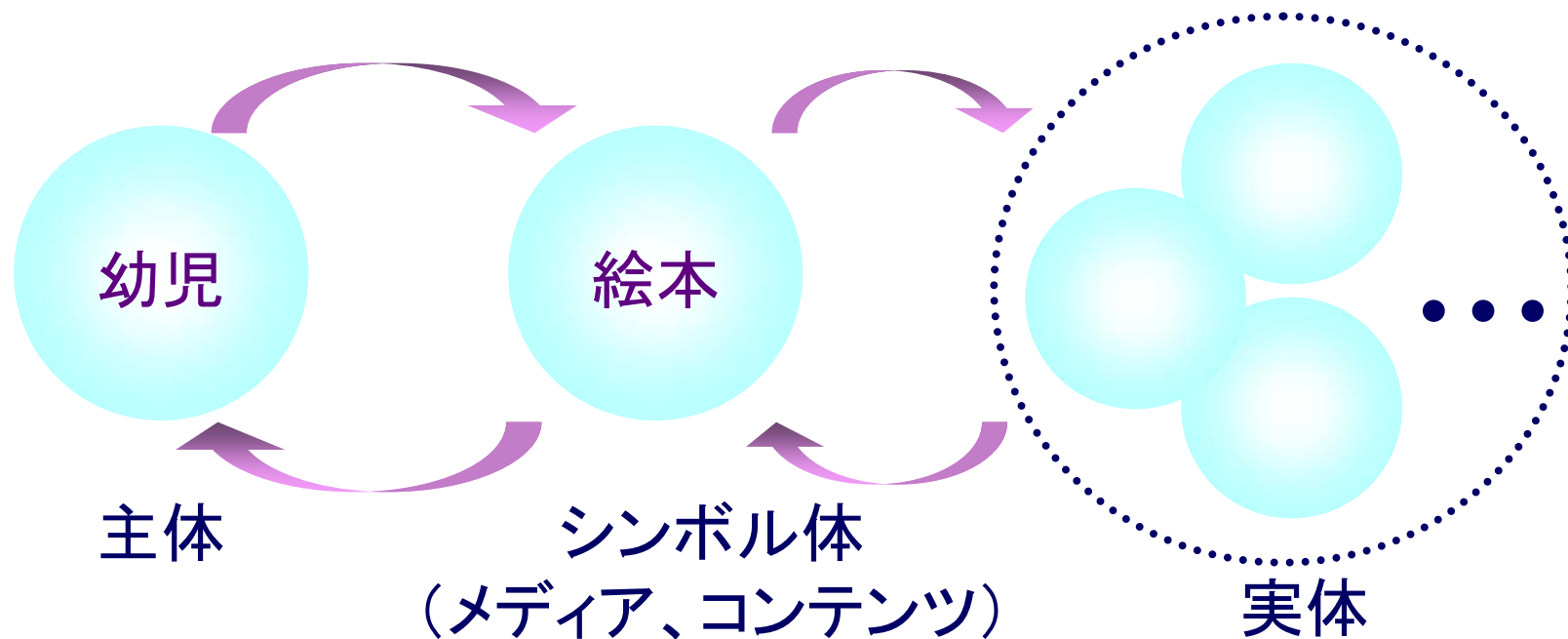
最適コーヒーモデル



- 1. 好みのブレンド、濃さ
- 1. 好みの量、温度
- 1. 好みのミルク、砂糖の量

のコーヒーをAさんは好きな時間、好きなペースで飲む。
将来のコンテンツプロバイダはこのモデルでサービスする。

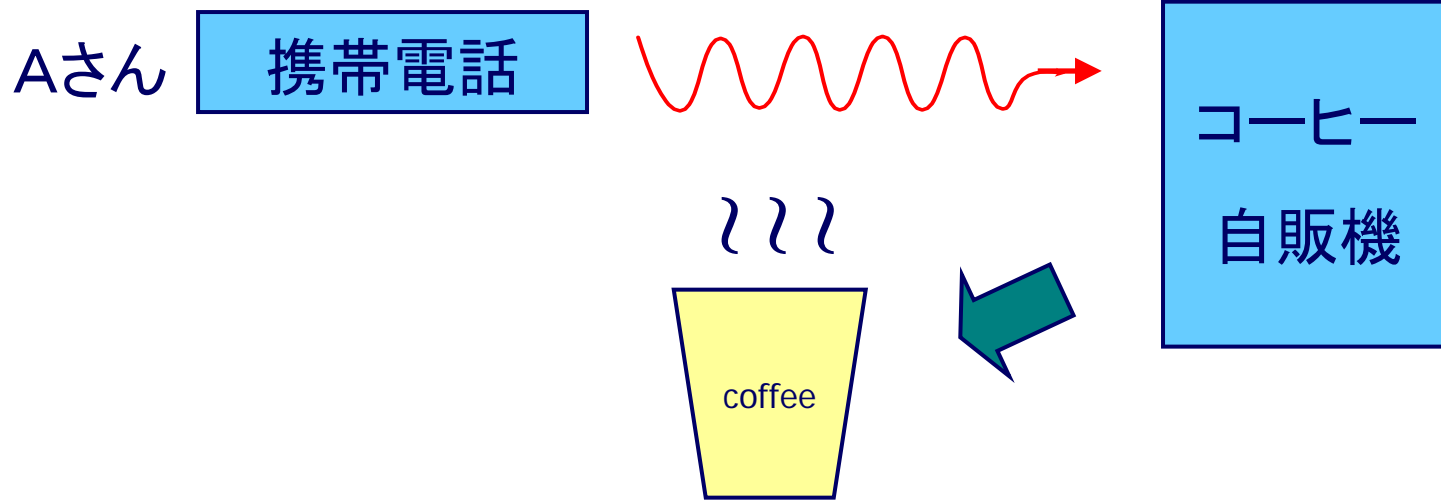
幼児とメディア(コンテンツ)



絵本に夢中になる幼児と思想の流れ

注: コーヒーモデルでは個性に合った味をマイペースで楽しむことに対応

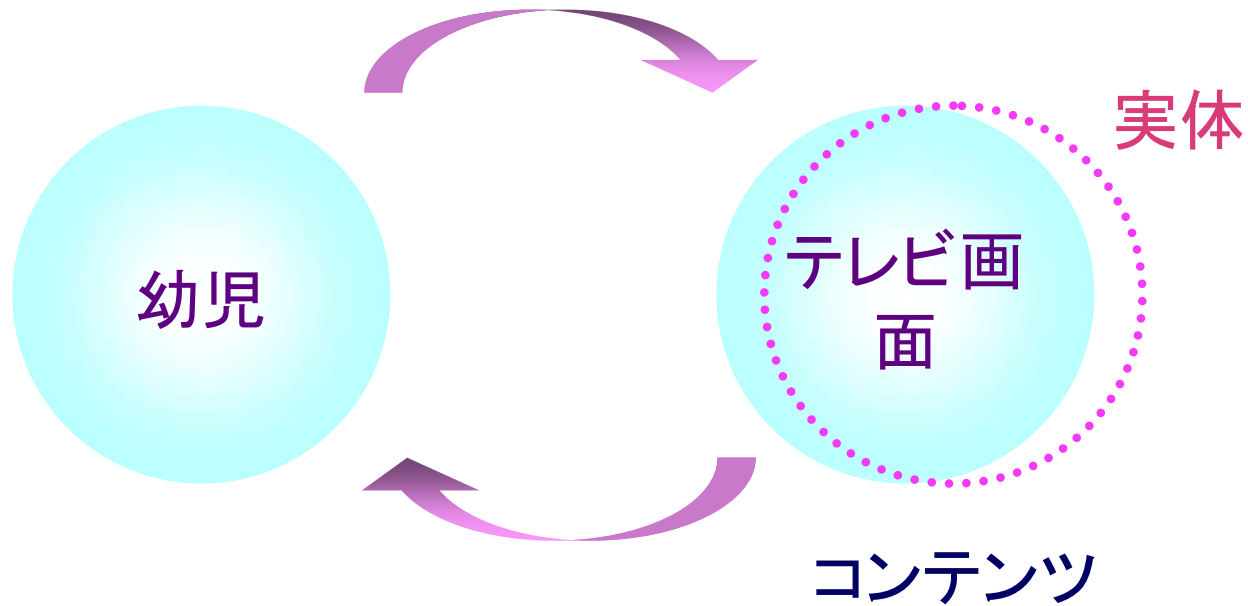
最適コーヒーモデル



- 1. 好みのブレンド、濃さ
- 1. 好みの量、温度
- 1. 好みのミルク、砂糖の量

のコーヒーをAさんは好きな時間、好きなペースで飲む。
将来のコンテンツプロバイダはこのモデルでサービスする。

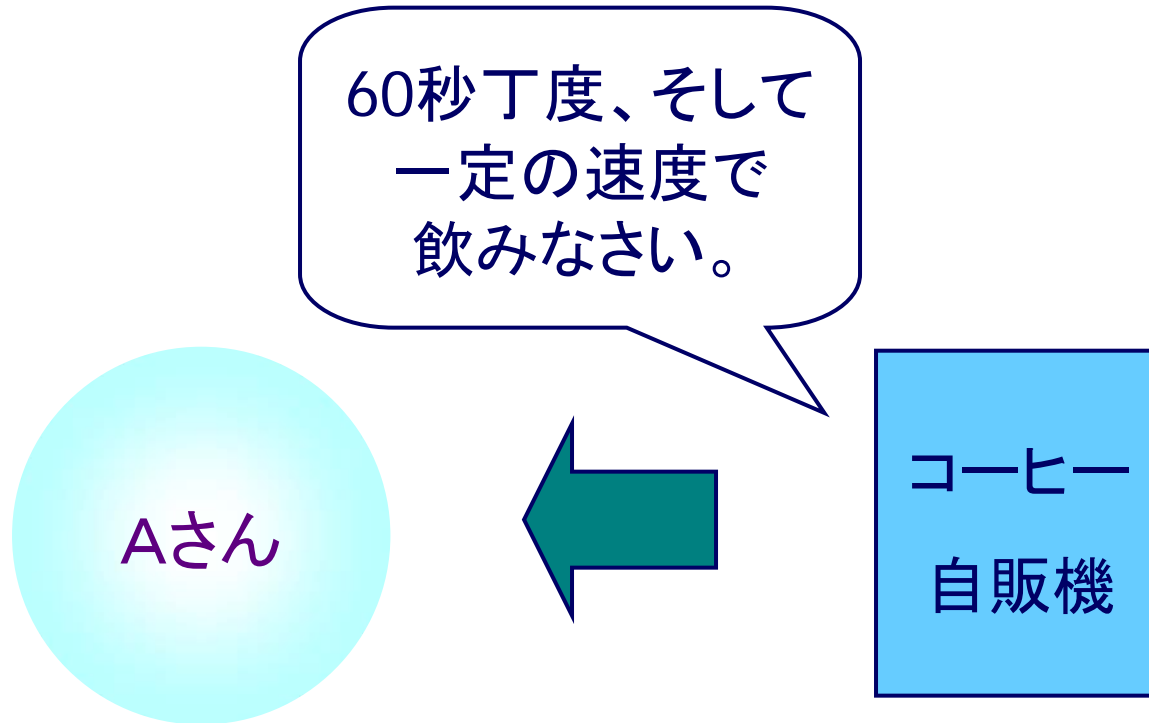
幼児とコンテンツ



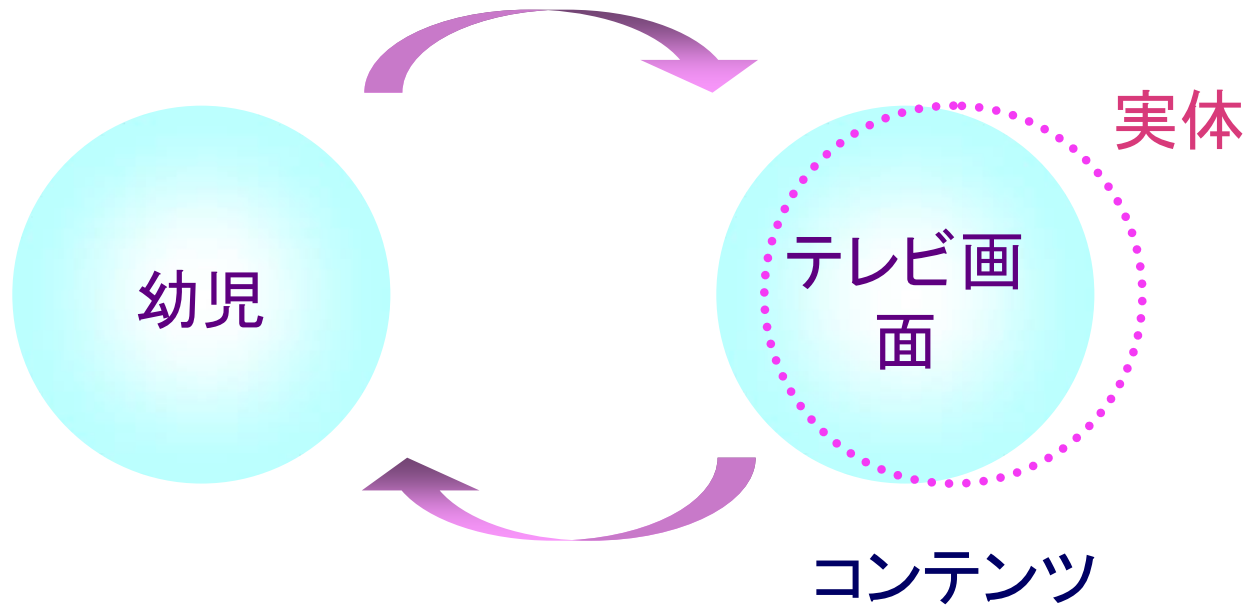
テレビを見る幼児の思想の流れ

注: コーヒーモデルでは均質な味のコーヒーを一定の速度で飲まされることに対応

非最適コーヒーモデル



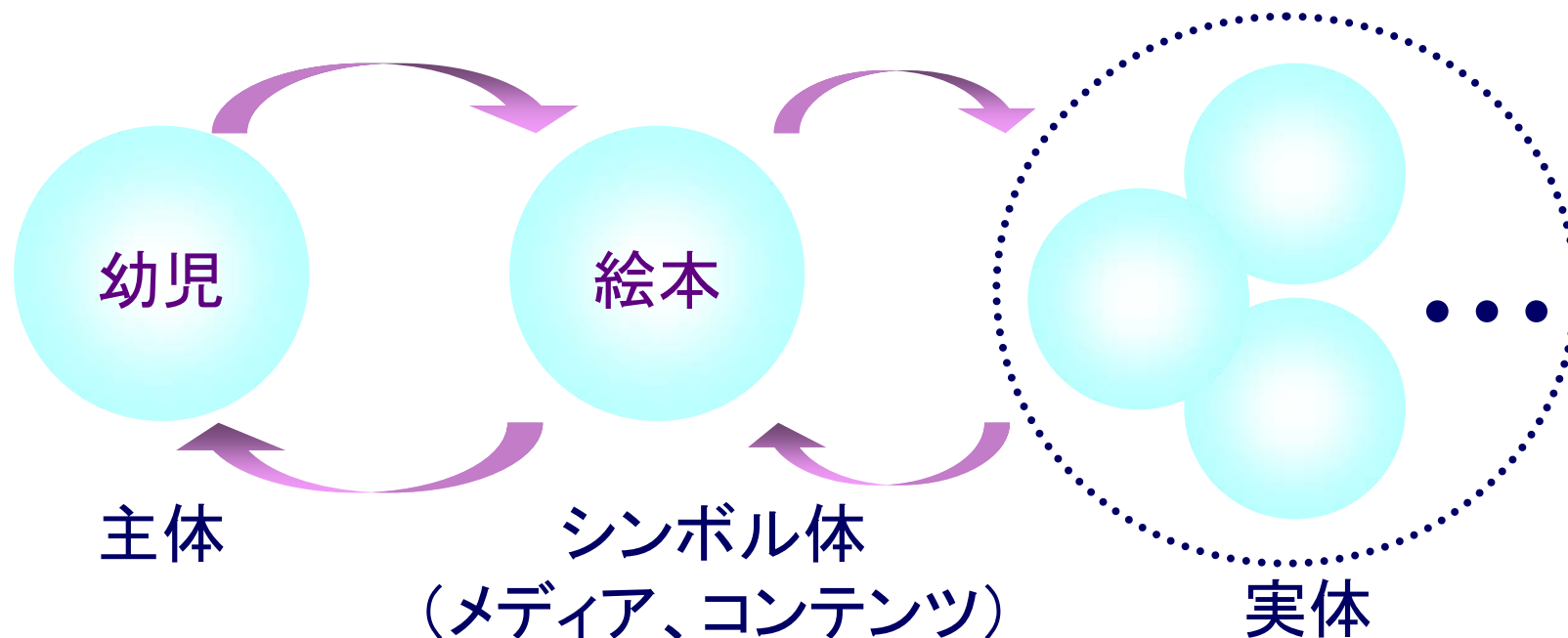
幼児とコンテンツ



テレビを見る幼児の思想の流れ

注: コーヒーモデルでは均質な味のコーヒーを一定の速度で飲まされることに対応

幼児とメディア(コンテンツ)



絵本に夢中になる幼児と思想の流れ

注: コーヒーモデルでは個性に合った味をマイペースで楽しむことに対応

赤ん坊達の学習教室は雑音、私語だらけ このことへの反省が情報倫理の本丸

携帯電話

早期知識つめ込み型
教育ビデオソフト

ラジオの音

CDプレイヤー

ゲーム機




感性、創造性を育む
誕生直後の学習教室

育児ロボット

DVDプレイヤー

つけっ放しのテレビ大画面、
(子守り役。我が国の赤ん
坊は1日平均3時間13分
テレビ視聴(NHK報道))

コンテンツに関わる最重要課題 ——21世紀国家発展の鍵——

- メディア（コンテンツ）の急速な発展がもたらす影
- 
- 乳幼児世代の感性，創造性，社会性が育まれなくなる。
- 
- 優れたコンテンツが将来，創出される芽が摘まれてしまう。
 - 優れたコンテンツに感動し，受け入れる世代が先細りとなる。
- 

以上のことがコンテンツに関わる最重要課題

国家の発展を支えるもの

感性、創造性を生み出す我が国のメディア環境は？

.....
このスタートラインにある乳幼児世代の現状は？環境は？
.....

このことを考えることが、情報倫理を考える出発点



このことによって国家の発展を支えるコンテンツの世界が活性化する。すなわち

- 優れたメディア(コンテンツ)を受け入れる心、感性
- 優れたメディア(コンテンツ)を創出する豊かな創造性が育つ

以上のことを具体的に理解するために

「科学的人間学」、「乳幼児心理学」、「動物行動学」の著書を紐解いて考えてみよう。
そうすると感性、創造性を育むためのひろい意味での“教育環境”の姿が具体的そして明白な形で浮かび上がってくる。

トリの赤ん坊達の学習教室

貧弱



学習
空間

豊か

離巢性 …… 親の世話が行き届かない。

—ニワトリ類

就巢性 …… 親に大切に育てられる。

—ワシ・タカ類

—カラス類

—ハト類



脳の一部の発達が
哺乳類と同程度。

就巢性の方が知能レベルが高い

高等哺乳類におけるコミュニケーション空間の比較(一般に離巢性の方が知能レベルが高い)

薄弱

コミュニケーション空間

豊か

ウマの赤ん坊(小型の大人として誕生) 離巢性

- 誕生直後に立ち上がる。
- リアルに自然界を観察する能力が生命を守る。
- コミュニケーション空間の形成は二の次。

サルの赤ん坊(小型の大人として誕生) 離巢性

- 母親にしがみつき。
- コミュニケーション空間としては適切ではない。

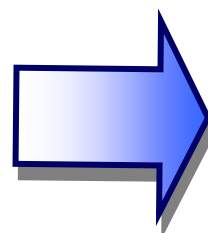
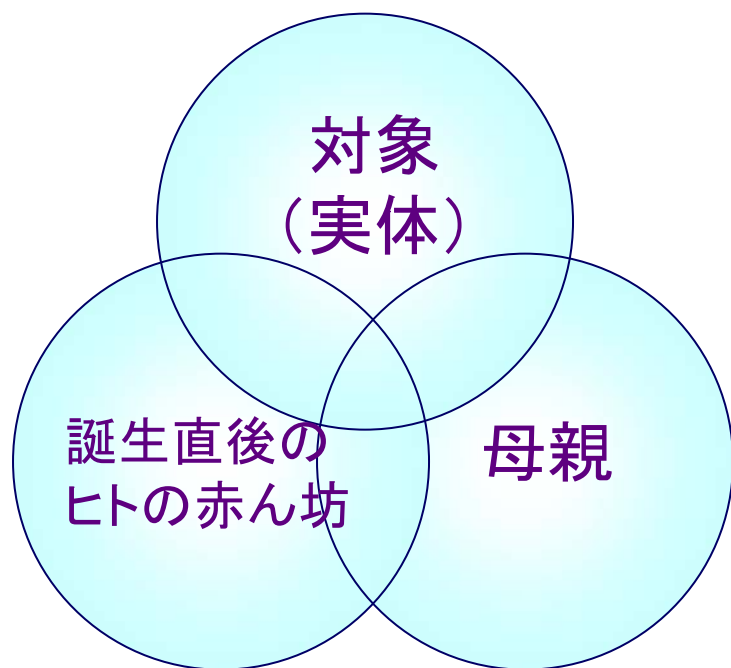
ヒトの赤ん坊(胎児として誕生。頭が極端に大きい。小型の大人ではない) 就巢性という点でネズミと同じ

- 母親の手に全てをまかせる。(因みに口唇のみ随意運動可)
- 母親の手がコミュニケーション空間を自在にコントロール。
- 赤ん坊は生得的行動(自発的微笑、クーイング等々)によりこの空間を豊かにする。

学習空間(教室)に入学したばかりの ウマやウシの赤ん坊達はどんな生徒？



学習空間(教室)に入学したばかりの ヒトの赤ん坊達はどうな生徒?

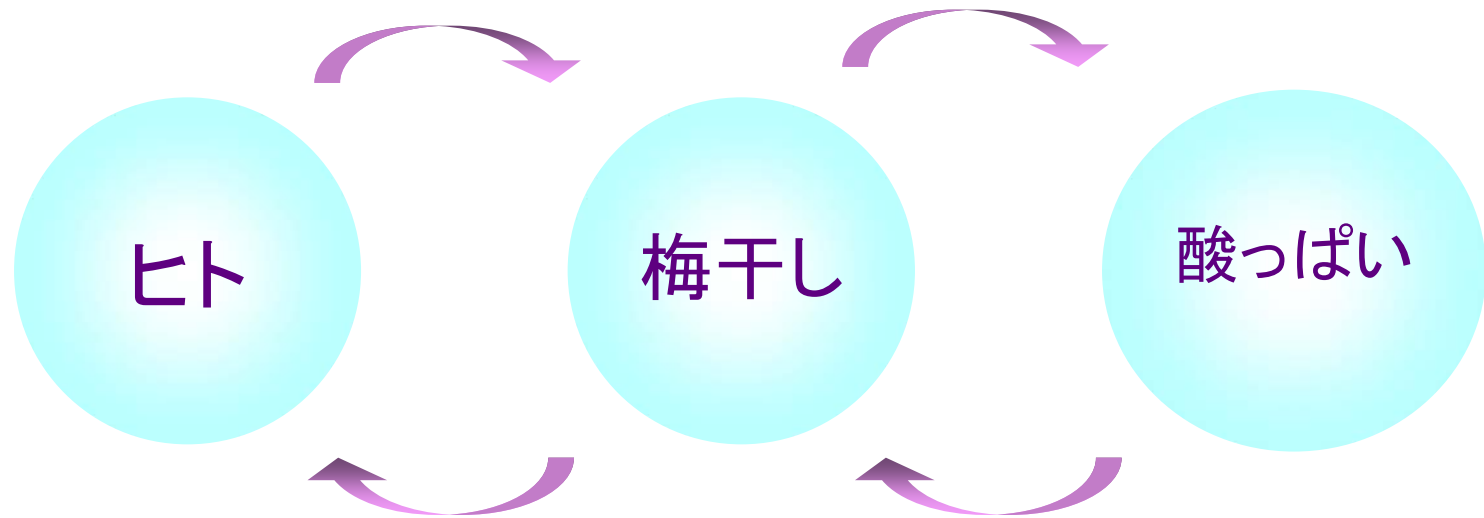


大人達の支援のもとに
社会人への
学習を始める。
教科書第1ページ目は
“シンボル、メディア(コン
テンツ)ってなあに?”

“自分と母親の区別もできない…
ましてシンボルなど…”

ウェルナー・カプラン 「シンボルの形成」 ミネルヴァ より

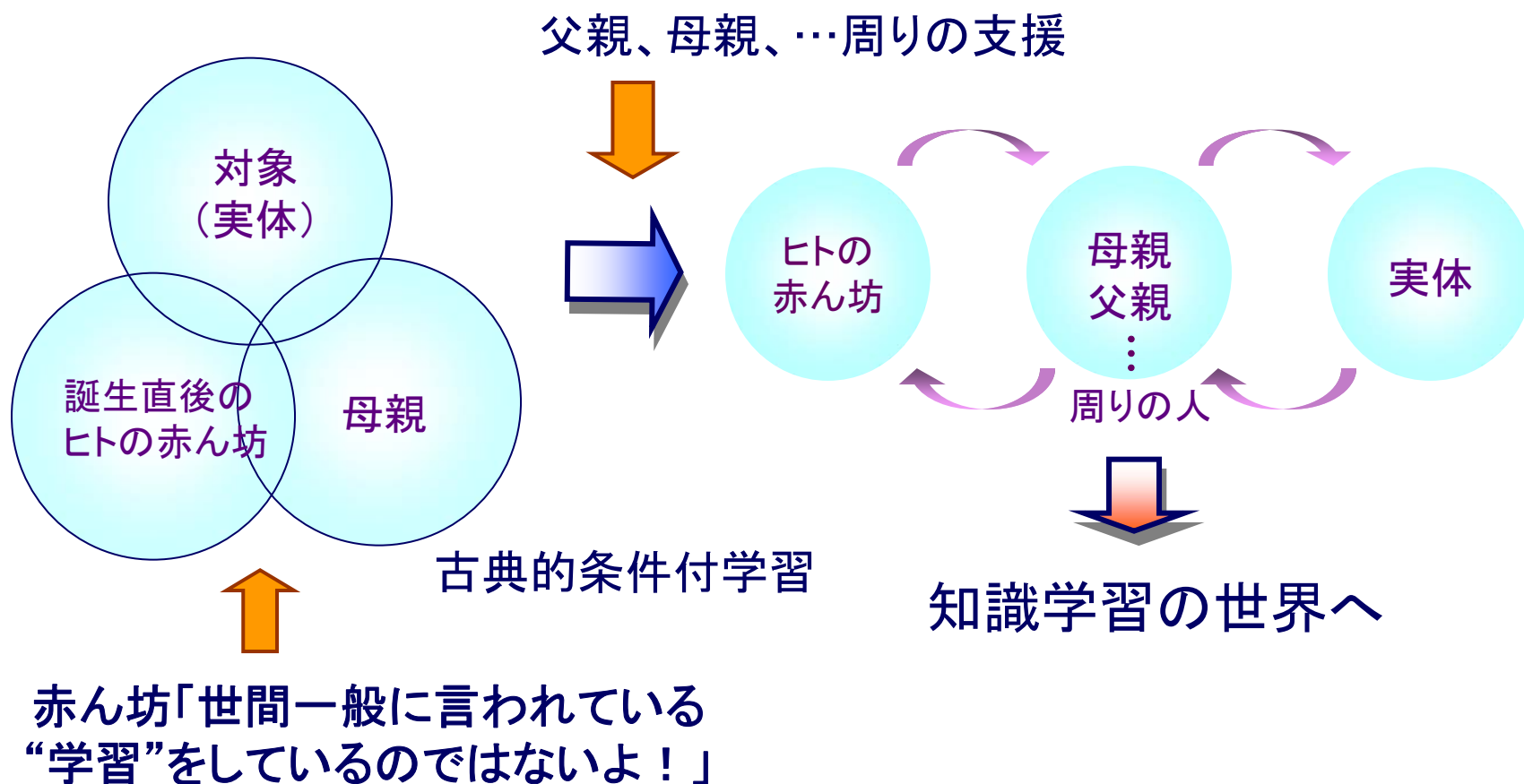
赤ん坊の学習時間の中心は「古典的条件づけ」と呼ばれる学習。…例えば以下のような例。



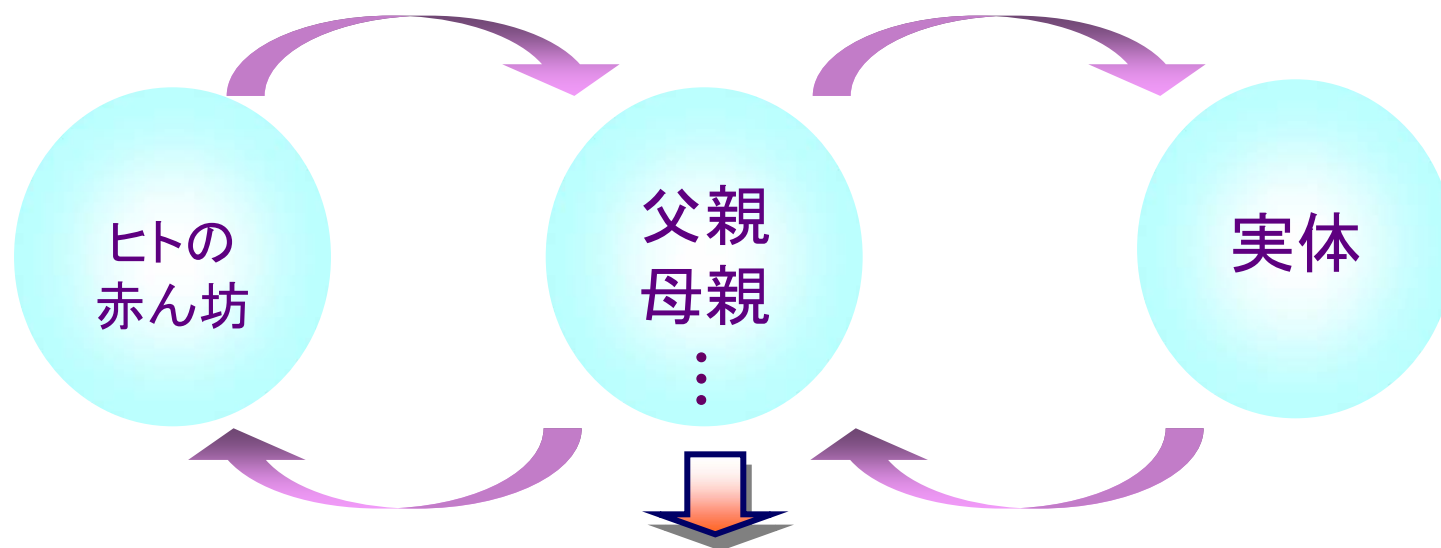
ヒトは梅干しを見ると酸っぱい味が伴うことを自ら学ぶ。
他者から教えられて学ぶ知識ではない。

学習：遂行の結果として生じる比較的永続的な行動
古典的条件づけ：有機体はある事象にもう一つの事象が
ともなうことを学ぶ

学習空間(教室)に入学したばかりの ヒトの赤ん坊達はどんな生徒？



赤ん坊はやがて知識学習の世界へ



やがて知識を学習する世界へ

赤ん坊はシンボルの世界を無限に広げ、感性、創造性を身につける。感性、創造性を修得した赤ん坊は、学習の世界に入っていく。

赤ん坊達の学習教室は雑音、私語だらけ このことへの反省が情報倫理の本丸

携帯電話

早期知識つめ込み型
教育ビデオソフト

ラジオの音

CDプレイヤー

ゲーム機

感性、創造性を育む
誕生直後の学習教室

育児ロボット

DVDプレイヤー

つけっ放しのテレビ大画面、
(子守り役。我が国の赤ん
坊は1日平均3時間13分
テレビ視聴(NHK報道))

赤ん坊が誕生後の コミュニケーション空間で得るものは？

感性、創造性、社会性
を獲得



人類社会、メディア(コンテンツ)発展の基盤をつくる

・・・しかし、小学校～社会人の教育基盤
の原点としての“乳幼児教育環境”の我
が国のレベルは世界ワーストワン？

何故、ワーストワン？

1. 嫡出年齢の低年齢化と高年齢化(1975年以降)。
1. 狭い居住空間に占めるIT機器のスペースが大。
1. 家族構成の変化、父親の勤務形態が欧米と異なり(日本人父親の1/3以上が10時間以上働いている)我が国においては母と子の1対1の子育てが中心となる。
 1. 子守役としてテレビが登場。つけっぱなしのテレビ視聴時間が我が国の赤ん坊において長い。
 1. テレビ局は視聴率が高いことをとにかく歓迎するという風潮。つけっぱなしテレビも数のうち？

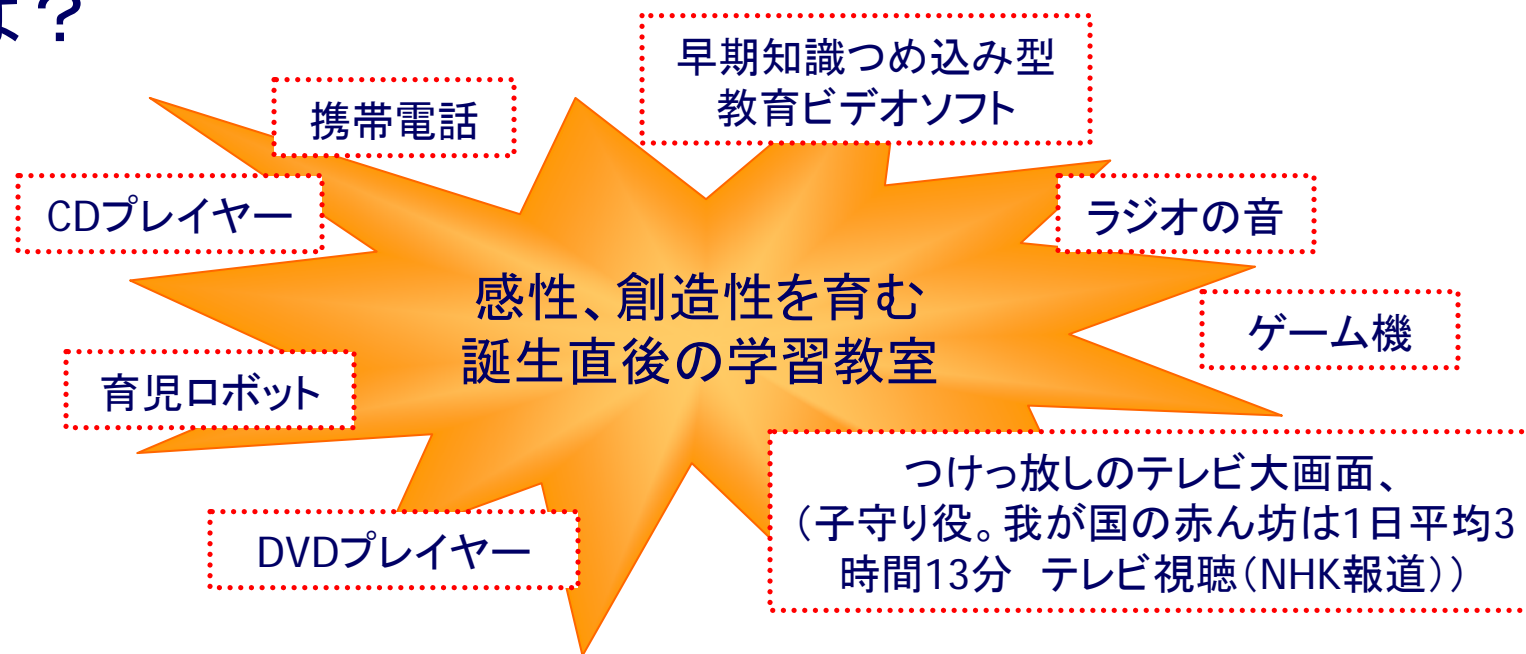
赤ん坊の人権宣言

赤ん坊たちは社会を生き抜くために、象徴化能力と感性を獲得するために健全な環境が与えられるという基本的人権を有する。自ら発言することができない赤ん坊の基本的人権を守るために、このことを宣言する。

2004年7月26日 笠原 正雄 電子情報通信学会「技術と社会・倫理」研究会
於 京都

草の根活動に期待

情報技術には本来、光も影もない。100パーセント人間の不注意によってもたらされる。情報技術の影は一体どんな形で覆蔵されているのか。その例は？



情報技術の影は影でありながら影としてあらわれない，覆蔵された影である。影が影として気付かれない。最も手強い影である。影が本当に覆蔵されているのか否かを科学的に確かめようという動きがある。愚かな動きのように思われる。

愚かな動き？何故？

- かしこい親は“危い壁”のそばに我が子を例え一瞬であっても立たせない。



- これは、ヒトだけでなく動物全般の親に通じる眞理。



- にも拘わらず、情報技術の影が影として100%科学的に明確になるまで“危い壁”のそばに立たせつづけようとする人達の動き。補助金を得て、実験的に確かめようという動き。これは愚かしいことと私は思う。



- 私達は自ら深く考え、少しでも危険が予測されれば迅速に子供達を“危い壁”から遠ざけるよう行動しなければならない。

むすびにかえて

私のささやかな草の根運動

- 赤ん坊テレビ0秒運動
- マンスリーホームコンサート

ここ数年、音楽コンテンツ活性化のため、京都、大阪で展開。
クラシック音楽普及のための草の根活動の例として、毎日新聞、
京都新聞で2回ずつ大きく報道される。

- コンテンツの作成
創作児童小説への挑戦。自費出版の予定。

電子情報通信学会より『情報技術の人間学』2月20日出版, (コロナ社)